

ふれあい

秋のある日、疲れて帰宅すると玄関のドアに小さな紙が貼ってあった。

たどたどしい漢字で松井様と書かれた模様入りの小さな便箋を開くと、それは下のような手紙であった。

よく見ると何度も消しゴムで消し、書き直したあとがある。思いがけない手紙を手にして、私は一日の仕事で疲れ、固くなった自分の心が溶けて、柔らかくなっていくように感じた。早速手持ちの中で最もかわいらしい便箋を

松 井 様

10月3日 私たちはホルあそびをしはぶでしていると中松井さんの家のベランダに入りました。(黄きいゴムホールです) ホールをとてらおうと家にいきましたかるすたはようてこの手紙を置かれました

もうしわけありませんかもし、ホールがありましたら、4日にとりにいけますのでよろしくおねがいいたします。

本当にすみませんでした。
栗沢悠宇
小高千香

松井
とし

出してきて、返事を書いた。思いがけない手紙をもらってうれしかったこと、明日も仕事で出かけているのでボールはガスメーターの中に入れておくこと、お天気の良い秋の日を元氣いっぱい遊んで楽しいことをたくさん見つけて欲しい、と書いたメッセージを玄関のドアに貼った。翌日帰宅すると、「ありがとうございました」と書かれたお礼の手紙が待っていた。

小学校三年生ぐらいであろうか。この二人の女の子の心は、見ず知らずの私という者に對して開かれている。人を信じてはいけなさと教えなければならぬ事件も多い。ビニールの小さなボールなんかまた買えばいい、ましてボールが手元に戻ればそれでおしまい、そんな現代社会の風潮を超越し、限りなく人を信頼し、メッセージを送ってくれた二人の女の子。それにしても名前しか分からない人に手紙を書くことは大変なことだったろう。でも察するところ、ボールが飛び込んだその時から、どうやら二人の遊びはこの手紙かきに変わったようだ。状況の変化に応じて楽しみを見つけ、生活を充実させていくことができる、その柔軟性にも感心させられた。

久しぶりに子どももの心につれ、私は忘れかけていた大切なことに気付かされ、癒された。

(元・幼稚園教諭)